

第四章 會商ノ序幕

發會式

會商發會式ノ前日六月七日、筆者ハ「ランネフト」代表ト會見、左ノ如キ意見交換ヲ行ツタ。

「ラ」ヨリ明八日總會ニテ爲スヘキ演說草稿ヲ示セルニ付、本使モ亦本使ノ草稿ヲ示シタル處、先方ニ於テ異存ナキ旨ヲ答フ。然ルニ些カ議長問題ニ對シ懸念ノ點アリシヲ以テ、本使ヨリ此ノ草稿ニハ異存ナキモ、今回ノ會商ニハ議長ヲ置カザルコト思考シ居レルカ御考ヘ如何ト諮問セル處、「ラ」ハ議長ハ國際慣例上會議地ノモノカ引受クルコト承認シ居リ、又議長ナクテハ議事ノ進行整理等ニ不便モアルヘシト答ヘタル故、本使ハ三國以上ノ國際會議ニ就テハ正ニ然ランモ、今回ノ如ク二國限リノ會商ニ於テ議長ヲ設クルノ必要ハ毫無之樣思考セラル。嘗テ伯林ニ於テ日獨通商條約改正談判ノ際、日本側ヨリモ又獨逸側ヨリモ仰セノ如キ問題ヲ提起セルコトナク、議長ナシニ滯リナク九ヶ月間ノ會議ヲ終了セル記憶アリト指摘シタル處、「ラ」ハ尙ホ執拗ニ議長トナルハ開會地委員當然ノ權利ナル旨ヲ主張シタルヲ以テ本使ハ今回

我々ハ和蘭國政府ノ希望ニ依リ當地ニ來リタル次第ナルカ、双方ノ關係ハ絶對々等ナラサルヘカラスト云ヒタルニ、「ラ」ハ自己ノ蘭印ニ於ケル高キ地位ヲ述ヘ、當然議長權ヲ確保シ得ルカ如キ口吻ヲ漏セルニ付本使ハ唯今申述ヘタル所ハ毫モ双互個人ノ問題ニ亘ルニ非ス。國トシテ日本ハ和蘭ト少クトモ對等ノ地位ニ置カレサルヘカラサル所以ヲ披瀝セルニ過キササルカ、議長ノ問題ハ單ニ總會議ノミナラス委員會及分科會ニ付テモ起リ得ルコトニテ、此ノ際明確ニ定メ置クヲ必要ト考フト述ヘタルニ、「ラ」ハ飽ク迄自分ノ議長權ヲ維持スル體ノ口吻ヲ漏セルニ付、然ラハ一步ヲ讓リ「ローザンヌ」會議ノ例ニ倣ヒ議長ヲ廻リ持チトナシ、最初和蘭側カ議長トナレハ次ハ日本側カ議長トナルコト、シテハ如何ト試問セルニ、之ニ付テモ難色アルモノノ如ク、何レ熟考ノ上回答スヘシト答ヘ、甚タ煮切ラサルニ付、本使ヨリ然ラハ最モ實際的ニ此問題ヲ解決スル方法ヲ示スヘシ。即チ明日ノ總會議ニ於テ貴方カ先ツ發言シ當方之ニ次クニ異存ナシ然レ共只今拜見セル貴下演說中冒頭ニ「是ヨリ會商ヲ開ク光榮ヲ有ス」トノ文句ハ事實其ノモノノ表明トシテ異存ナキモ、其最後ニ「予ハ唯今ヨリ會議ノ開會ヲ宣言ス」トノ文句ハ端のニ本問題ニ觸ルル故、先ツ右文句ノ削除ヲ得タシト申出テタル處、先方之ヲ快諾セルニ付、然ラハ明日ハ先ツ「ラ」演說シ本使之ニ次キ、更ニ「ラ」ヨリ本使ノ演說ニ共鳴スル體ノ美辭ヲ列ヘタル後、次ノ會合ハ兩代表部合議ノ上追テ之ヲ決スヘシト陳述シ散會スルコト、シテハ如何ト述ヘ、先方ノ快諾ヲ得タリ。

茲ニ於テ本使ハ此發會式ニ次テ催サルヘキモノハ委員會並ニ分科會ナルヘク、之ハ勿論秘密會ニテ又人數モ少ナキ故、議長存在ノ理由ハ毛頭無之、又此等委員會カ協定ニ達スル迄總會議ヲ開クニモ及ハサルヘ

キニ付、結局總會議ハ明日ノ發會式ト最後ニ開カルヘキ閉會式丈ニ過キサルコト、思ハル、而シテ明日ノコトハ既ニ協定済ナレハ、殘ル問題ハ閉會式ノ問題ニテ、之カ爲メニ今ヨリ議長問題ヲ彼此論議スルニモ及ハスト思料スルカ如何ト問ヘルニ、「ラ」ハ未タニ執着アルモノノ如ク考慮ノ時ヲ與ヘラレンコトヲ求メタルヲ以テ、本問題ハ之ニテ打切り。本使ヨリ明日ノ發會式ニハ公衆ヲ何人位招ク積リナリヤ、本使ノ知ル所ニテハ國際會議ヲ公開トセルハ海牙ニ開カレシ第二回平和會議ヲ嚆矢トスルコト、思ハルルカ、其時モ會場狹隘ノ爲メ公衆入場者ヲ制限スル方法トシテ切符ヲ發行セリ、今回モ會場極メテ狹キニ付適當數ニ限ル方便利ナルヘク、例ヘハ三、四十人ニテハ如何ト申出テタル處、本日ノ會見ニ關聯シ時間場所等打合ノ爲メ「ラ」ヨリ越田總領事ニ電話ノ際、先方ニテハ公開ヲ好マサル語氣アリタル旨同總領事ヨリ聞キ居タルニ付、態ト公開當然ノコト、前提シテ話ヲ持掛ケタル次第ナリ、「ラ」ハ到底斯クノ如キ多數ノ公衆ヲ收容スル場所ナシト思ハルルニ付、双方各々二十名ニ限リ入場セシムルコトシテハ如何ト問ヒタル故、夫レニテ差支ナシト答ヘタルニ、頻リニ椅子ノコトヲ氣ニシ居ル故、巴里講和會議發會式ノ例ヲ舉ケ夫レニ及ハサルヘシト述ヘ、斯ク決定ス、此二十名中ニハ新聞記者ヲモ含ム、就テハ人數ノ制限ヲ嚴守スル爲メ各代表部ヨリ入場券ヲ二十枚宛發行スルコトセリ、更ニ「ラ」ヨリ會議席ニ出席スル人員數ニ付協議アリタルヲ以テ、兩代表部各八名トスルニ決シ、其他ハ後部ニ配置セラルル椅子ニ着席スルコトトシ、其數ヲ十名ト協定ス。

「ラ」ハ話題ヲ改メ昨日ノ日本提案ヲ總督カ自分ニ轉交セルコトハ目撃セラレタル通りニ付、右ニ對スル自分等ノ意見ハ追テ之ヲ御渡シスヘキカ、自分等モ亦大綱ニ關スル提案ヲ有スルニ付、之ヲ交付スル爲メ前述ノ本使ノ演說ニ對スル讃辭後「蘭國代表部ハ昨日日本ノ提案ヲ受取レリ蘭國ノ提案ハ之ナリ」トノ趣旨ヲ述ヘテ右ヲ御渡シ度シト云ヒタリ。本使モ斯クノ如キコトモアランカト思ヒタレハコソ、總督ニ對シ別レニ臨ミ蘭國政府ノ回答ヲ待チ居ル旨繰返シ述ヘタル次第ナレハ、之ニ關スル「ラ」ノ注意喚起ニ對シテハ左様ノコトアリシヤヨク記憶セスト空トボケタル後、貴方ヨリ當方ニ提出サルヘキ意見ハ喜ンテ之ヲ研究スヘキモ、其意見ハ同時ニ蘭本國政府ニモ當然提出セラルヘキ儀ト思考スト注意シタル處、「ラ」ハ其通りナリト云ヘルニ付、之ハ行キ違ヒヲ避クル爲メ最モ必要ノコトニテ當方ニテモ萬一ノ行キ違ヒヲ慮リ昨日直ニ提案ト併セテ情報ヲ海牙ノ武富公使ニ電報シ置ケリト告ケタル後、貴方ニテ公開ノ席上昨日ノ我提案ニ言及セラルルニ於テハ、當方トシテハ、一般言論機關ニ對スル義務トシテ、直ニ其内容ヲ公表スルコトヲ餘儀ナクセラルヘシト存スルカ、一國カ他ノ一國ニ對シテ或提議ヲナシ、其回答ヲ待タスシテ該提議ヲ公表スルコトハ國際慣例ニ悖リ非禮ノ事ト思考スルモ只今ノ如キ態様ニテ事ヲ處セラルルニ於テハ是亦已ムヲ得サル仕儀ナルヘク、之ニ關スル苦情ヲ當方ハ受ケ得ヌコト、御承知置テ願度シ。然シ乍ラ何モ斯クノ如ク角立テル形式ニテ貴方ノ提案ヲ公表セラル、ニモ及ハスト思フカ如何ト述ヘタルニ、同席ノ「モウ」氏頻リニ之ニ共鳴シ、「ラ」ハ然ラハ先刻申シ述ヘシ通りニ議場ニテハ本使ノ演說ニ對スル讃辭ト次ノ會合ニ關スルコトノミヲ述ヘ、閉會後本使ニ自分側提案ヲ手交スルコト、スヘシト述ヘ、本使之ニ對シ當方ニテモ十分ノ研究ヲ加フヘキヲ約シ、之ニテ本件モ一先ツ落着セリ。

蘭側口上書

發會式ニ於ケル演說ハ双方共儀禮ニ過キスモノデアルカラ之ヲ掲ケヌガ、閉會時ニ「ランネフト」代表カラ筆者ニ渡シタ口上書ノ譯文ハ左ノ通りデアル。

日蘭兩國代表間ノ交渉開始ニ當リ、和蘭國代表ハ近年蘭領東印度ニ於ケル一般商業及貿易關係ノ發展ニ關スル其見解ヲ説明セント欲ス、右ハ討議セラルヘキ問題ニ對スル其態度ノ背景ヲ成スモノナリ。

貿易カ正常ノ狀態ニ在リシ時ニ於テハ、蘭領東印度ハ其諸種ノ產物ノ多數ノ國ニ對スル輸出カ急激ニ増加スル熱帶國ナリキ。殊ニ第二十世紀ノ初以來蘭領東印度ハ生産及貿易ノ國際的進歩ニ參加シ、國際市場ニ對スル熱帶產物ノ主要供給者ノ一トナレリ。貿易障壁ト地方的保護ハ既ニ存在シタリト雖、主要工業國ニ於テ需要セラル、粗製原料ト食料品トヨリ成ル蘭領東印度產物ハ、世界的ニシテ且ツ着々擴張スル市場ヲ見出シタリ。

此等輸出ハ當國經濟生活ノ樞軸ヲ成シタルモノニシテ、製造品ニ對スル需要ヲ増加シ、當國住民ノ諸階級ニ於テ累進的購買力ヲ造リタリ。大衆向キ日用品ニ於テモ、重要商品ニ於テモ、甚タ重要ナル市場樹立セラレ、之ニ依リテ蘭領東印度ハ近代經濟生活ノ參加者トシテノ重要性ヲ擴大シタリ。

私企業ト政府ノ經濟政策トハ右ノ效果ニ向ツテ協力シタリ。第十九世紀中葉以來蘭領東印度ハ上記ノ發展ニ向ツテ著シク貢獻セル政策ヲ維持シタリ、凡テノ國ハ他ノ何國ニ於ケルヨリモ自由ナル條件ニ於テ天然

資源ノ踏査開發ニ參與スルコトヲ許サレタリ、多種多樣ノ外國商社及會社並漸次増加スル移民（右ノ内日本人ハ絶ヘス増加シタリ）ハ此ノ機會ヲ充分ニ且ツ有利ニ利用シタリ。輸入、輸出、資本投下、船舶業等經濟的精力ノ凡ユル形式ハ此事態ノ效果ヲ表明シタリ。大戰後殊ニ一九二九年ニ始マリタル不景氣ノ最中及其後ニ於テ、此一般狀況ハ全然變化シタリ、各國相次イテ不景氣ノ結果、益々増大スル困難ニ打勝ツ爲諸種ノ根本的保護政策（新稅率、輸入禁止、割當制度、貨幣制度等）ヲ採用シタリ、國際的世界市場ハ全ク數個ノ政府ノ權力内ニアル閉鎖的國內市場ニ分轄セラレ、右等政府ハ國內生産ノ爲メ有利ニ又ハ自國ノ輸出ノ刺戟劑トシテ輸入ヲ統制セントス。

新商業政策ノ結果ハ、既ニ世界的不況ニ依ツテ生シタル慘憺タル窮狀ヲ甚タシク惡化シ、殆ンド總テノ蘭領東印度ノ輸出ニ對スル脅威ヲ形成スルモノナリ。右輸出ノ脅威タルヤ實ニ當國ノ重大利益ニ對スル危險ナリ。抑モ外國ヨリ物資ヲ購入スル力ハ事實上自國產物ノ販賣ニ依存スルモノナリ。從テ近年我方輸入ノ全數量及價格ノ甚タシキ減少ヲ見タリ。同時ニ我方輸入ハ急激ニ日本ニ有利ニ轉向シ日本ノ分前ハトントン拍子ニ増加シタリ。一國ノ輸入カ他ノ凡テノ關係國ノ犧牲ニ於テ斯クノ如ク著シク進歩シタル諸種ノ原因ハ今暫ク問ハストスルモ、此展開ハ蘭領東印度ノ貿易關係ノ將來ニ對シ重大危險ノ原因ヲ爲スモノタル事ハ之ヲ疑フ餘地ナキ事實トシテ高調スル事ヲ得ヘシ。全世界ニ急速ニ擴リツツアル求償又ハ物々交換ノ原則ハ、從來蘭領東印度ヨリ輸出シタル凡テノ國ヲシテ其輸入ヲ先ツ自國ノ工業品ニ市場ヲ供給スル事ヲ得ル國ノ爲メニ保留スルコトニ努ムルノ輸入政策ヲ採ルヲ餘儀ナクセシメタリ。

夫レ故ニ日本品カ激烈ナル競争ニ依ツテ他ノ外國品ヲ蘭領東印度市場ヨリ驅逐シツツアル事實ハ、蘭領東印度ノ總テノ輸出品ニ對スル大ナル危險ト成レリ、此等ノ輸出品ハ實ニ蘭領東印度ノ市場ヨリ驅逐サレタル商品ノ生産國ニ對シテ賣ラレサル可カラサルモノナリ、蘭領東印度政府ハ本意ナガラ、最近ノ輸入ノ危險ナル傾向ノ此ノ上ノ發展ヲ阻止スル對策ヲ採ラサルヲ得ス。

我方ノ一般政策ニヨリ諸種ノ實業團體ノ世界的參與ヲ見タルカ、其目的ノ樞軸ハ我方ノ經濟的利益ノ擁護ニ在リ。然ルニ推移シツ、アル今日ノ世界ニ於テハ舊式ノ方法ニテハ此目的ヲ達シ又ハ尠クトモ之ヲ維持スルコトニ全然失敗セリ。政府ノ干涉ニ依リテ蘭領東印度產物ノ買手トシテノ各國ノ重要性ト其國ノ輸入ニヨル利益トヲ注意深ク「調整」スルコトニ依リテノミ、當國ヲ世界ノ商業界ニ於ケル孤立ノ恐れヘキ結果ヨリ保護スルコトヲ得。

以上簡單ニ述ヘタル問題ハ蘭領東印度ノ全經濟ヲ抱擁スルモノナルカ、問題ノ明確ナル觀念ヲ得ル爲メニ此事態ヨリ生スル問題ヲ二ツノ部類ニ分割スルヲ可トス。

(イ)輸出入狀態及貿易ノ均衡。

此點ニ於テハ和蘭代表ハ貿易ノ「バランス」カ甚タシク蘭領東印度ニ不利ニシテ輸入及輸出ノ現狀ハ全ク不満足ナル事ヲ指摘セント欲ス。之ヨリモ満足ナル貿易ノ「バランス」ヲ容易ナラシムル爲メニハ、我方ヨリ日本ニ對スル輸出ノ數量及價格ヲ大イニ増加スルコト肝要ナリ、假令貿易統計ニ依レハ輸入ト輸出ト均衡ヲ得居ルモ、尙ホ日本トノ貿易ノ「バランス」ハ殆ント總テ他ノ國トノ「バランス」ヨリモ不利

ナリ、我方ニ對スル輸入國ノ重大ナル變化ノ爲、蘭領東印度ニ於テ市場ヲ喪失シタル諸國ニ對スル我方輸出ノ繼續カ危險トナリタルコトハ既ニ指摘シタリ。

(ロ)蘭領東印度ノ生産及商業(農業、鑛業、工業、卸賣及小賣業、船舶業、金融業等)ニ對スル國際的參與。此點ニ關シ我政府ハ既ニ日本政府ニ對シ經濟生活現狀ノ重大ナル攪亂ヲ防止スル目的ヲ以テ、此事態ニ對應スル措置ヲ採ルコトヲ必要トスヘキ旨通報シタリ。今日迄諸種ノ利益ヲ確保スル爲政府ハ其ノ自由權ニヨリ諸般ノ措置ヲ執リ來レルガ、當國ノ社會的及經濟的生活ノ圓滿ナル發達ノ爲更ニ此ノ自由權ヲ行使セサルヲ得ス。此種ノ措置ヲ採ルコトハ全ク蘭領東印度政府ノ裁量ニ屬スト雖、同政府ハ日本蘭領東印度間ニ永年存在シタル友好關係ニ鑑ミ、提議サレタル措置ニ關係アル範圍内ニ於テ日本ノ利益ヲ討議スル機會ニ與フヘキ旨ヲ日本代表ニ對シ言明シタリ。從テ必要ナル法律上ノ權限ヲ含ム法令ノ實施ヲ當分ノ間延期シタリ。

和蘭代表ハ今開始セラレタル討議ノ満足ナル結果ハ、唯タ上記諸種ノ困難ヲ複雜ナル問題ノ構成分子トシテ取扱フコトニ依リテノミ之ヲ収メ得ヘキモノナルコトヲ強調ス。

夫レ故ニ和蘭代表ハ日本代表ニ對シ討議ノ要アル諸問題ヲ列記セル討議項目ノ草案ヲ提出スル意向ナリ。筆者カラ總督ニ渡シタ聲明案ハ、「デ・グラトフ」外相ガ軍縮委員會ノ爲メ壽府ニ出張中デ十一日漸ク海牙ニ歸ツタノト、「コライン」首相ガ十三日「バタヅキヤ」ヨリ歸着ノ「ハルデマン」氏ノ報告ヲ聞イタ上デ廟議ヲ決シタイ意嚮ノ爲メ、其儘ニ成ツテ居タガ、六月二十一日我代表部ハ左ノ電報ヲ武富公使カラ受取ツ

タ。

二十日求メニ依リ外務大臣ヲ往訪シタル處、大臣ハ本件ハ過日來ノ御話ノ次第ノ外、現地ヨリノ報告モアリ、政府トシテノ態度ヲ決定スル爲メニハ、同僚大臣トモ篤ト協議ヲ重ヌル要アリタル爲メ遷延シタル譯ナルカト前置キシ、長岡代表ヨリ總督ニ提出セラレタル聲明案ハ「ランネフト」ヲシテ討議セシムルコトニハ異存ナシ。總督ハ此種ノ交渉ヲ爲ス權限ヲ有セサルノミカ、女皇ニ直接シ居ル特種ノ地位ヲ保持スル關係上、交渉及署名ノ權限ヲ賦與スルカ如キハ内政上ヨリモ爲シ難キコトナリ。然ルニ「ラ」ハ今回ノ會商ニ關シテハ勅令ニ依ル權限ヲ有シ居ルニ付、會商關係ノコトハ一切同人ニ於テ管掌スルコトトシ度、從テ長岡代表ヨリ改メテ同人ニ該提案ヲ提起セラルル様希望ス。總督ニ對シテモ右ノ趣旨ニテ電報ノ答ナリト述ヘタルヲ以テ、本使ヨリ種々質問シ應答ヲ重ネタルカ、其中ニ同大臣ハ「ラ」ト討議云々ノ御意向ハ會商ニ於ケル討議ノ基礎トシテ採用ストノ意味ナリヤトノ問ニ對シテハ明答ヲ避ケ、提案其ノモノモ篤ト研究シ見レハ討議ニ價スルモノアルモノノ如シト答ヘタル上、蘭側ノ考ヘニテハ此種ノ經濟上ノ方針乃至「ブリンシブル」ハ日本及蘭印間通商上ノ諸具體事項ヲ互ニ檢討シ討議シタル後出來ルモノナラハ出來ル譯ナラント述ヘ、總督ノ地位云々ニ關シテハ過日來次官カ本使ニ對シ總督ハ此種問題ニ付中央政府ヨリ訓令ヲ受クヘキモノニアラス、總督トシテハ中央ニ單ニ「リファア」シ得ル丈ケナリト説明セルヲ肯定シ、更ニ長岡代表總督間政治事項討議云々既電ニ關シテモ、往日ノ言ヲ繰返シテ遺憾ナカラ長岡代表ノ御意向ニ添ヒ難シト答フルト共ニ、又四月中長岡代表ハ總督トノ會談ノ御要求ニ對シテハ自分ヨリ總督ニ書面ヲ出シ

置キタルモ、通商事項ニセヨ政治事項ニセヨ外國使節ト具體的ノ交渉乃至調印ノ權限ヲ與ヘヨトノ趣旨トハ全然諒解シ居ラサリシ儀ト御承知願ヒ度ト辯シ、又本使ヨリ問題ノ提案ノ討議ニ際シ若シ貴我代表間ニ於テ政治事項協議ノ必要ニテモ認メラルルカ如キ場合如何ニ處置セラルルヤト突コミタルニ對シ、大臣ハ「ラ」ハ之レヲ自己ノ權限外ト答ヘ得ヘク、又自分トシテモ貴方ノ御説明ハ承リ居ルモ該案ヲ以テ純經濟政策ニ屬スル事項ト認メ居リ左様ナ政治的ノ考慮ヲ含ムモノトハ考ヘラレサルノミナラス、又其意味ニテ取扱フ意向ヲモ有シ居ラス。今回ノ會商ニ關シテハ豫テ申上ケアル通り目的ハ經濟問題ノ討議ニアリテ、現ニ他ノ如何ナル外國トモ通商的ノ會商ヲ爲シ居ルノミナリト説明シ、最後ニ同大臣ハ之ハ未タ明瞭ニ打開ケ難キ話乍ラト前置キシ、蘭側トシテハ具體的ノ通商上ノ話ヲ早く進捗セシメタク現ニ蘭印ノ經濟事情ハ此儘ニテハ棄テ置キ難キ狀態トナリ居リ、本國トシテモ豫テ計畫中ナリシ制限措置等ノコトヲ早く始末ヲ付ケタキ意向モ起リ居レリ。從テ會商ニ於ケル問題ノ複雑化ハ希望セスト内話シ、婉曲乍ラ少クトモ會商ニ關連シテハ政治問題提起ノ意向無キコトヲ示スト共ニ、政治的解決トナルカ如キコトヲ回避ストノ警戒的態度ヲモ現ハシ居レルモノトノ印象ヲ受ケタリ。

仍テ筆者ハ「ランネフト」代表ヨリノ面會要求ヲ待受ケテ居タ處、果シテ電話ガ掛ツテ來タノデ、六月二十一日會議場テ會見シタ、其要領左ノ通り。

(一)先ツ「ラ」ハ本日會見ヲ求メタル事ハ極メテ簡單ナル事ニテ斯クノ如キ所ニテノ會見ヲ要セサリシモノト述ヘタルガ、推測スルニ當方カ會議場ニ本人ヲ呼寄せタルニ多少不滿ノ意ヲ漏ラセルモノノ如ク考ヘ

ラレ、夫レハ此前先方ノ要求ニ依リ往訪セル際、先方ノ事務所ニ當方往訪セル經緯アルニ鑑ミ、今後ハ中立性アル會商會議場ヲ面會ノ場所ト定ムル慣例ヲ作り置クコト可然ト認メ、當方ヨリ斯ク手配シタルモノナリ。(以來會見ハ殆ンド會議場ニテ之ヲ爲ス)

次テ「ラ」ハ斯クノ如キ場所ニ御呼立テスル積リハ毛頭無之誠ニ心外乍ラ、自分ノ陳ヘントスル所ハ十五分位ニテ済ム事ナルカト前置シタル後、和蘭側ニテハ既ニ提案シ居ル處、之ニ對スル日本側ノ回答如何ト聞キタルニ付、本使ハ右ハ甚タ意外ノ御質問ナリト考フ。當方ヨリハ去ル六日既ニ御承知ノ如キ提案ヲ總督ニ對シ提起シ居リ、其回答ヲ待ち居リシ次第ニテ、右回答未着ノ爲メ當方トシテハ貴方ノ提案ニ對スル研究ハ其上ノ事トスル積ニテ未タ研究ニ着手シ居ラス。今此要求ニ接シ甚タ當惑シ居ル次第ナリト答ヘタル處、「ラ」ハ先日總督ノ面前ニテ述ヘシ如ク此問題ハ我代表部ニテ研究スヘキ範圍ニ屬スルニ就テハ、曩ニ提出アリタル提案ヲ公式ニ我代表部ニ對シ提出セラルル様願ヒ度ク、尤モ貴方提案ハ一種ノ條約ヲ構成スルモノナレハ急速ニハ取扱ヒ難シト陳ヘタルヲ以テ、本使ハ今次會商ノ結果ハ總テ約定ノ形式ニ取纏メラルヘキモノナルヘク、若シ豫メ同案ニ調印スルコト困難ナルニ於テハ、之ヲ「バラフエ」シ、會商ノ結果ノ他ノ妥結事項ト共ニ、一括海牙ニ於テ調印スル事ニテ何等差支ナキ儀ナリト言フ返シ、更ニ本使ハ、總督ニ我方提案ヲ提出セル所以ハ和蘭側ニ於テ何カ我方提案ニ關聯シ他ニ提案スヘキ考察モアリ得ヘキカト思ヒタレハコソ之ヲ代表部限りノ問題トセサリシ譯合ナルカ、若シ和蘭側ニ於テ此提案ヲ其儘ニ論議セラルル意嚮ナルニ於テハ、當方トシテハ本提案カ純經濟事項ニ止マリ居ルニ鑑ミ、和蘭代表部ト協議スル

ニ毫モ異存ナキ次第ナリト云ヒタル處、「ラ」ハ自分側ヨリモ提案セリ、之ニ對スル回答ハ何時得ラルルヤト再ヒ問ヒタルニ付、本使ハ當方ノ提案ハ御承知ノ通り六月六日ニ提出シ居リ、從テ貴方提案ヨリモ先ニ提出シタル我方提案ニ付回答ヲ得ルハ當然ナリト説キタルカ「ラ」ハ貴方ヨリノ提案ハ今ヨリ正式ニ當方ニ提起セラルル筈ナルニ、當方ノ提案ハ既ニ數日前提出シアルニ付其回答ヲ鶴首待ち居ル次第ナリト述ヘタリ。依テ本使ハ今迄ハ本問題ニ對シ抽象的ニ御話シ居レルカ斯クナル上ハ致仕方モ無キ儀ナリ。實ハ今朝海牙ヨリ接受セル電報其儘ヲ申述フレハ本提案ニ付貴國政府ハ慎重ナル考慮ヲ加ヘラレタルモノト思ハル、即チ蘭國政府ニ於テハ貴方ヨリノ報告ヲ受ケ諸大臣ノ海牙歸還ヲ待ちテ合同協議ヲ盡サレン爲メ、時日ヲ遷延セラレタル事ハ貴方外務大臣カ武富公使ニ陳ヘシ處ナリ。依テ漸ク昨日ニ至リ其回答カ當方ヘ傳達セラレタル程ナリ。要之我方トシテハ右回答ノ如何ニ依リ我提案ニ對スル我方今後ノ態度ヲ決定スル積リナリシヲ以テ率直ニ云ヘハ貴方ノ提案ハ一覽セル迄ニテ何等研究シ居ラス、當方トシテハ貴方ニ於テ果シテ我方提案ヲ如何ニ取扱ハルルカヲ知ラサル限り、貴方ノ提案ニ對スル回答ヲ爲シ得スト述ヘタルニ對シ「ラ」ハ我々ハ貴方ヨリ正式提案アラハ直ニ回答スヘク、右回答ハ頗ル簡單ナルヘシト述ヘタルヲ以テ、本使ハ今御話ニ依レハ貴方ハ我方提案ヲ全部蹴ラルル積ナリト考フ、若シ然ラハ問題ハ至極簡單ナリ。我々モ最早此地ニ留マル必要ナルヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ夫レハ「エマトブル」ニ非スト述ヘタルニ對シ、本使ハ夫レハ寧ロ貴方ノ事ナルヘシ。當方ヨリ貴方提案ニ先立チ提起シタル提案ヲ形式ニ捉ハレ後ニ出シタルモノト取扱フカ如キ態度ニテハ到底相談ニ乘リ難シ。抑々我方提案ニ關聯シ政治問題ヲモ考慮シタレハコソ總督ニ右案ヲ提出シタ

ルモノヲ、貴國政府ニ於テ追加要求ノ要ナシトテ右ヲ貴代表部ニ移シタルモノナルカ、當方ニテハ本案其ノモノ丈ケナルニ於テハ當初ヨリ貴代表部ニ於テ之ヲ取扱フコトニ異存無キ次第ナルニ付テハ、今後ハ右方針ニテ進ムヘシト夫々説明シタルニ、「ラ」ハ然ラハ右貴方提案ヲ公式ニ何時我方ニ提起セラルヘキヤ、能フ限り明二十二日午前中ニ之ヲ爲サレ度シト言ヘルニ付、本使ハ明朝十一時迄ニ之ヲ爲スヘキ旨約セリ。

次テ「ラ」ハ又々先方提案ニ對スル我方回答時期如何ヲ繰返シ、二十三日一般委員會開催ヲ主張セルヲ以テ、本使ハ夫レ迄ニハ前述ノ事情ニ依リ我方回答ヲ發シ得サル旨ヲ述ヘ、且ツ前述ノ通り二十二日午前ニ貴方ニ公式ニ提出セラルヘキ我方提案ニ對シ、何時貴方ヨリノ回答ヲ得ラルヘキヤト反問セルニ、二十三日ニ回答スヘシト述ヘタルヲ以テ、本使ハ我方ハ二十五日ニ非サレハ回答發送不可能ナリト言ヘルニ、「ラ」ハ然ラハ自分側回答モ右同様ニスヘシト前言ヲ取消シタルヲ以テ、本使ハ斯クノ如キ遣方ニテハ、各自身勝手ノ議論ニ終始シ、必スヤ惡結果ヲ齎ラスニ至ルヘシ。當方トシテハ一應貴方ノ主張ヲ聞キテ然ル後回答ヲ出スニ非スンハ無意味ナリト考フル旨說キタルニ、「ラ」ハ漸ク前言ニ立返リ二十三日ニ自分方ノ回答ヲ爲スヘキ旨述ヘタルヲ以テ、本使ハ我方回答ハ二十五日ニ爲スヘキ旨答ヘタリ、斯クテ一般委員會ヲ二十六日午前九時ニ開催スルニ話纏マリタリ。

議事規則

(一) 次テ議事規則ニ關シ本使ヨリ口ヲ切り、懇談ノ結果左ノ通り決定セリ。

(イ) 言葉ノ問題ニ付テハ一切ノ「文書」ハ英語ヲ使用スルコト、兩代表部構成委員ハ其欲スル言葉ニ依リ發言スルヲ得ルモ、右言葉ハ要求ニ依リ英語ニ翻譯セラルヘキコト。

(ロ) 會議議事録ハ英語ニテ作成セラルヘキコト、而シテ兩代表部ノ書記官ニ依リ起草セラレ、右兩部代表ノ承諾ヲ經タル後、書記官夫々之ニ署名スルコト。

(ハ) 「コムミュニケ」ニ付テハ各會議ノ終リニ之ヲ出ス必要アリヤ否ヤ並ニ其内容ニ付協議スヘキコト、右「コムミュニケ」ノ敷衍の説明ヲ部外ニ爲ス問題ハ各場合ニ付合議決定スヘキコト。

(ニ) 委員會及分科會ノ會議ハ秘密會タルヘキコト、一般委員會ニハ各代表部ノ總テノ委員參列スヘキコト(ホ) 代表部名簿ニ記載セラルル委員ハ、委員會又ハ分科會ノ凡テノ會議ニ參列スルノ權利ヲ有スルコト。分科會ニ於テハ各代表部構成委員ニ非サルモノモ、相互ノ協議ニ依リ承認シタルモノニ對シテハ參加及發言セシムルヲ得ルコト。

(ヘ) 議長問題 委員會及分科會ニ於テハ、各代表部ノ上席者カ、各其代表部ヲ指導スル責任ヲ有スルコト和蘭代表部ノ首席ハ、總會及一般委員會ノ議長タルヘキコト、尤モ議長ノ職務ハ日本代表部首席ト合議ノ上行使セラルヘキコト。

(本問題ニ關シ「ラ」ヨリ先日述ヘシ如ク議長問題ハ頗ル困リ居ル問題ナリ、御承知ノ通り自分ハ蘭印ノ樞府副議長ニシテ副總督ノ地位ヲ有シ居ルニ拘ラス、今次會商ニ於テ而モ右會商開催地ノ人カ議長權ヲ得ルト云フ從來ノ慣例ニ鑑ミ、自分カ議長タラサル事ハ當地ノ如キ植民地ニ於テハ當ニ自分一個ノ問題ニ止

マラス、頗ル苦痛ヲ伴フ問題ニ逢着スルヲ以テ、此點特ニ同情セラレ度ト懇願的陳述アリタルヲ以テ、本使ハ右議長權問題カ至極面倒ナル問題ナル事ヲ顧慮シタレハコソ、本使ノ體驗セル一九一一年伯林ニ於ケル日獨通商條約締結交渉ノ際ノ議長權問題不提事情ヲ過日説明セル所以ヲ指摘スルト共ニ、過般ノ「シムラ」會商ニ於テモ議長問題ハ起ラサリシ旨ヲ説明シタルニ、「ラ」ハ尙ホ執拗ニ自分ノ地位ニ付問題ヲ繰返シタルニ付、本使ハ自分ノ記憶ニ依レハ海牙ニ於ケル第一回萬國平和會議ニハ、和蘭ノ外相「ボーフォール」氏ハ最初ニ演說セルモ、右演說終了直後露西亞ノ首席代表議長席ニ着キ、右和蘭外相ハ名譽議長ニナリ、又第二回平和會議ニ於テモ時ノ外相「ファン・テッ・ファン・グロドリアン」氏ハ最初ノ演說ヲ爲シ次テ露西亞ノ「ド・ネリードフ」大使カ議長トナリ、右和蘭外相ハ名譽議長トナレリ、又第三回平和會議ノ議長ハ如何ナル方法ニ依リ之ヲ選フヘキヤノ問題起リ頗ル紛糾シ居タルガ、同會議ハ世界大戰ノ爲メ招請セラルルニ至ラサリシ經緯等ヲ述ヘ、夫々説明シタルモ肯セス。仍テ本使ヨリ一步ヲ譲リ前記（ヘ）案ヲ提議シ議長ニ命令乃至指揮ノ權限ナキハ勿論、萬事ハ豫メ當方ト相談シテ處理スヘシトノ條件ヲ附シテ折合タリ）

（ト） 議事日程ハ兩代表部協議ノ上決定スヘキコト。

双方反駁書ノ交換

約束通り「ランネフト」代表ハ六月二十三日我提案ニ對シテ左記要譯ノ回答ヲ送ツタ。

和蘭代表部ノ意見ニ依レハ日本代表部提起ノ協定案（四大原則）ハ本會商ノ結果ヲ構成スルモノニシテ其出發點ニ非ス。和蘭代表部ハ協定案ノ内容如何ニ不拘會商ノ初期ニ宣言案ニ署名スルコトニ絶對反對スルト共ニ、會商ノ基礎トシテ日本案中ニ包含セラルルカ如キ共同宣言又ハ協定ハ不必要且ツ望マシカラサルモノト思考ス。

仍テ和蘭代表部ハ日本側見解ノ表彰トシテノ右案ヲ討議スルノ用意アルモ、和蘭代表部ハ茲ニ日本側覺書ト同時ニ討議セラルル爲メ既ニ提出済ノ和蘭側口上書中ニ其意見ヲ記載セルコトヲ指摘セント欲ス、日本側覺書ニ記載セル四項目ニ關シ左記ノ「オブサーヴエーション」ヲ爲サントス。

（一） 蘭印政府カ輸出入統制ノ諸法規ヲ制定スルノ必要アルコトハ和蘭側口上書第八項ニ說述シアリ。日蘭兩國ハ一切ノ關係事項ニ十分ノ考慮ヲ拂フコトナクシテハ政府ノ如何ナル干涉モナサレサルコト、並ニ兩國ハ合理的ニ又公平ニ行動スルモノナルコトヲ相互ニ期待シ居ルモノナリ。尙ホ日本側覺書中ニ在ル「和蘭國ガ……ルハ其固有ノ權利ニ屬スト雖」ノ文句ハ不要ニシテ徒ニ誤解ヲ惹起セシムルモノナリ

（二） 和蘭代表部ハ日蘭印間貿易ノ健全ナル發達及調整並ニ兩國關係當業者ノ利益ノ公平ナル統制及保護ノ諸事項カ、全ク會商討議ノ範圍内ニ屬スヘキコトニ賛成ス。既ニ實施中ノ諸制限措置ニ關スル交渉ハ本會商中ニ行ハレ得ヘシ。

（三） 日本側覺書第三項ノ規定ハ和蘭代表部ノ受諾シ得サル處ナリ。和蘭國ニ於ケル日本ノ利益及日本帝國ニ於ケル和蘭ノ利益ノ地位ニ付テハ一九一二年ノ條約ニ規定セラル。蘭印ニ於ケル措置カ直接又ハ間

接ニ他國ヨリモ一國ニ事實上過重ナラサルヘシト云フカ如キ規定ハ右條約中ニ包含セラレ居ラス。和蘭政府ハ蘭側口上書ニ記載セル經濟政策ノ遂行ノ爲一切ノ必要措置ヲ執ルノ完全ナル自由ヲ保持ス。然レトモ或場合ニハ此等ノ措置ニ依リ一國ノ利益カ他國ノ利益ヨリモ實質的ニ多ク影響ヲ受クルコトアルモ、右ハ此自由ヲ變改スルモノニ非ス。

(四) 和蘭代表部ハ和蘭政府ニ於テハ過去ト同様、現ニ可能ノ範圍内ニ於テ、將又當國ノ經濟的均衡ノ維持ヲ考慮シテ、一切ノ諸外國ヲシテ蘭印ノ經濟的發展ニ參加方許與スルノ用意アリト信ス。

要之和蘭代表部ハ經濟關係ノ満足ナル調整ヲ得ル目的ヲ以テ意見ヲ交換シ協力スルノ意アルト共ニ、蘭印政府カ既ニ實施シ又ハ實施方考慮中ノ諸措置ニ關聯スル限り、日本ノ利益ニ付討議スルノ用意アリ。

我方ヨリモ約ニ從ヒ六月二十五日左ノ回答ヲ「ランネフト」代表ニ送ツタ。

日本國首席代表ハ本年六月八日蘭國首席代表ヨリ手交セラレタル口上書ヲ受領閱悉セリ、按スルニ右口上書ハ蘭國政府ノ現ニ執リ且ツ今後執ラムトスル貿易政策ノ因由及目的ヲ明ニシ、今回ノ日蘭會商ニ於テ蘭國代表部ノ重要視セラルル問題ノ性質ヲ開陳セラレタリ。

日本國首席代表ハ既ニ本會商ノ圓滿進捗ヲ希望スル趣旨ニテ、商議ノ根本原則宣言ノ案ヲ提起シ、日本國ノ態度ヲ明示シ置キタルカ、此機會ニ於テ蘭國側口上書ニ對スル感想ヲ率直ニ披瀝シ置ク事モ、亦相互ノ諒解ニ資シ、商議ノ進展ヲ計ル所以ナリト信シ、左ノ通り回答旁所見ヲ開陳スルノ光榮ヲ有ス。

一、右口上書ハ劈頭大戰後ノ世界經濟不況ニ基ク歐洲諸國ノ貿易政策ノ變動、就中「ナシヨナリチース」

ノ對峙分立並ニ「コンベンゼーション」又ハ「パートナー」主義ノ強行ニ因リ蘭領東印度ノ貿易ノ將來ニ重大ナル危惧ヲ齎ラシタル事ヲ指摘シテ、其傳統的自由開發主義ヲ捨テ、此新狀態ニ對應スル政策ヲ採ラサルヲ得サル所以ヲ開陳セラレタリ。

日本國代表ハ此新貿易政策即「パートナー」主義カ一般不況ヨリ來ル不幸ナル結果ヲ益々惡化シ、獨リ蘭領東印度ノミナラス世界一般ノ輸出ニ脅威ヲ與フルモノナル事ハ蘭國代表ト意見ヲ同ウスルモノナリ。今後果シテ斯卡ル主義政策カ世界經濟ヲ支配スヘキ原則トシテ確立セラルヘキヤニ就テハ多大ノ疑ヲ抱クモノナリ。現在歐洲諸國中ニハ或ル範圍内ニ於テ此政策ニ據ラムトスル傾向アルハ事實ナルモ、其結果ハ必スヤ失敗ニ終ラムカト思考ス。何トナレハ此等諸國ハ其國ノ生産物ガ最早他國ニ取リ不必要ナルカ、價格其ノ他經濟的理由ニ依リ購入困難ナルカ、又ハ世界ニ多量ニ生産セラレ居ルノ事實ヲ度外視シ、之カ購入ヲ他國ニ對シ強要セムトスルモノナレハナリ。

二、次ニ前記口上書ハ「蘭領東印度輸入市場ニ於テ近年日本品カ激烈ナル競争ニ依リ飛躍的増進ヲ示シ、爲ニ蘭印生産物ノ顧客タル他ノ諸外國品ヲ驅逐セル事實ガ、蘭印生産品ノ輸出ニ甚大ナル危險ヲ及セルモノ」ナル事ヲ高調セラレタリ。惟フニ一國ニ多量ノ輸入ヲ見ル物品ハ、他ノ事情ニシテ變ラサル限り必スヤ其國民ノ要求スル物品タル證據ニシテ、世界各市場ニ於ケル日本品ノ躍進ハ正ニ此國民ノ需要並ニ購買力ニ適應セルカ爲メニシテ、實ニ經濟ノ自然法則ニ從フノミ。同様ニ蘭領東印度ノ輸出ハ生活必需品及工業原料ナルヲ以テ、今日迄工業國ハ其輸入ヲ必要不可缺トナシ、從テ其障碍トナルヘキ關稅其他一切ノ人

爲の條件ヲ越エテ市場ヲ維持セル事、亦自然ノ原則ニ據ルモノト云フヘシ。

此等商品工業原料輸入國ニシテ權力政策ニ依リテ其國民及工業ノ必需品ヲ拒斥セムトスルモノアラハ、其國民及其工業ノ欲求必需ヲ無視スルモノト云ハサルヲ得ス。若シ夫レ一切ノ輸出貿易ノ不振ハ世界の不況ニ基クモノニシテ、獨リ蘭領東印度ノミニ見ル現象ニ非ス。而カモ蘭印ノ輸出貿易數量ハ世界各國平均ノ夫レヨリモ遙カニ減少率少キハ事實ナリ。

以上ノ考察ニ據レハ「日本品カ他ノ外國產品ヲ蘭領東印度市場ヨリ驅逐セルノ事實」ヲ以テ直ニ「蘭印ノ一切ノ輸出品ニ對スル重大危險」ノ原因トナスハ日本國代表ノ首肯シ得サル所ナリ。

三、口上書ハ其結論トシテ日本ト蘭印トノ貿易狀態ニ關シ問題ヲ二群ニ分チ（イ）輸入、輸出及貿易均衡ノ狀態ヲ論シ、日本ヘノ蘭印生産品輸出増進ノ必要ヲ強調セラレタリ。

素ヨリ日本ハ原料品ニ不足シ居ル爲、所要ノ原料品ハ其條件ダニ満足スヘキモノナルニ於テハ、何國ヨリモ之ヲ購入スルヲ辭セス。從テ蘭印ノ如キ天然原料品ノ生産供給地ニ於テ、日本ノ必要缺ク可カラサル原料品ヲ生産シ、我等ノ希望ニ添フ様努力セラルルニ於テハ、現時ノ如キ貿易ノ一時的不權衡ハ容易ニ調整セラレ得ヘシト信ス。

然レトモ日本國代表ハ蘭印經濟當面ノ困難ニ同情スルモノナルヲ以テ、前述ノ如キ日本ノ必需原料品生産ノ實現ニ至ル迄ノ過渡期ニ於テ、出來得ル限りノ好意の考量ヲ加フルヲ惜ムモノニ非ス。此點ニ關聯シテ日本ニ於テ購入可能ノ物品ノ何ナリヤノ問題ニ就テモ研究スルノ要アルヘシ。

四、（ロ）蘭印産業ノ國際的地位ノ項ニ於テ、蘭領東印度ノ經濟現勢ノ攪亂ヲ防止スル手段トシテ、將又蘭領東印度ニ於ケル社會の經濟的生活ノ圓滿ナル發達擁護ノ目的ヲ以テ、必要ナル措置ヲ執ルノ自由ヲ強調セラレタリ。

日本國代表ハ何等蘭印政府ノ内政ニ干涉スルノ意思ナキモノナルカ、右措置ノ自由ハ對外關係殊ニ通商關係ニ於テハ既存ノ條約ノ趣旨ニ背馳セサル範圍内ニ於テ可能ナルヘキモノナリ。特ニ蘭印ニ於テ第三國ニ同國ノ市場ヲ留保セムカ爲ニ日本品ノ輸入ヲ制限セムトスルカ如キモノナルニ於テハ、其手段ノ直接タルト間接タルトヲ問ハス、吾人ノ到底容認シ得サル所ナルコトヲ茲ニ豫メ宣明スルハ無要ノコトニ非サルヘシト信ス。

尙ホ此機會ニ日本國代表ハ現行日蘭通商條約ノ根幹ヲ爲ス最惠國待遇ノ條款ニ付注意ヲ喚起セムトス。而シテ本來差別的待遇ヲ否定スル最惠國約款ハ、相互ニ或ル特種ノ便宜利益ヲ供與シ最惠國ニ不利益ヲ與フル結果ヲ招來スルニ至ル種類ノ互惠主義トハ、一般ニ本質上相容レサルモノナル事ヲモ茲ニ附言セムトス。

加之各主權國政府ハ其領土内ニ於テ自國ノ産業保護ノ爲必要ナル措置ヲ執ルノ自由ヲ有スト雖、之カ實行ニ依リテ制限拘束ヲ加フルニ當リテハ、凡テノ條約國ノ在留外國人及取引ノ商品ニ對シ均等無差別ノ待遇ヲ爲スヘク、且ツ其制限拘束ノ範圍モ亦合理且ツ公正ヲ期スヘキハ論ヲ俟タス、例ヘハ永年ノ努力ニ依リ營業基礎ヲ其地ニ確保セルモノハ、外國民ト雖一種ノ Vested rights or established interests 屬シ、當然擁

護セラルヘキモノニシテ、之ヲ一片ノ法令ニ依リテ突如生活ノ基礎ヲ失ハシムルカ如キ事アラムカ、決シテ妥當合理ノ措置ト云フヲ得サルヘシ。況ンヤ右ノ措置ノ結果カ主トシテ特定少數ノ個人又ハ團體ノ利益擁護ニ終ルカ如キモノナランニハ、公正ノ原則ニ反スト云フモ過言ニアラサルヘシ。

五、以上蘭國代表ノ口上書ノ要綱ニ對スル日本代表部ノ所見ヲ開陳セルカ、曩ニ日本首席代表カ會商開始ニ先チ總督閣下並ニ蘭國首席代表ニ提示シ最近公文書トシテ蘭國代表部ニ送附セル會商ノ根本原則四個條モ、亦實ニ右所見ニ基クモノニ外ナラス、從テ兩國代表ニ於テ茲ニ披瀝セル基礎の原則ニ關スル双方ノ所見ヲ吟味攻究シ、更ニ一段ノ諒解ヲ遂ケテ、始メテ具體的ニ各個特別問題ノ討議ニ移ルコト自然ノ順序ナルヘシ、從テ各箇別ノ問題ニ付日程ヲ討議スルコトハ未タ其時期ニ非サルヘシト思考ス。

第五章 一般委員會

一般委員會ノ論戰

以上デ大體ノ意見交換ハ終ツタ。和蘭政府ガ純經濟問題ニ交渉範圍ヲ局限スルニ決シタコトハ、筆者トシテ頗ル不本意デハアルガ、同政府ガ此決定ヲスル迄ニハ日數カラ考ヘテ、充分ノ考慮ヲ拂ツタコト、思ハレルシ、先方ガ現在以上ノ保障ハ不要ダト云フノニ、當方ガ餘計ナ差出口ヲスルニモ當ラヌ。而シテ經濟的見地ヨリスル双方ノ主張乃至通商條約ノ解釋ニ關スル双方ノ意見ガ全然相違シテ居ルノハ最初カラ判リ切ツタコトデ、歩ミ寄りヲセヌ限リ話ノ纏マリ様ハナイ。我々ハ夫ノ四大原則ガ其儘先方ニ受入レラレルダロウ杯考ヘタコトハ無イノデ、之ヲ出シタノハ先方ノ自覺ヲ待ツ爲メノ時間ヲ得ルノガ主タル目的ノ一ツデアツタガ、未タ其鼻息ハ頗ル荒イカラ、今少シ假スニ時ヲ以テスル必要ヲ認メタ。一般委員會ニ於ケル筆者ノ言動ハ總テ此見地ニ基イタモノデ、其經過ハ次ノ通りデアル。

一般委員會ノ第一回會議ハ六月二十六日朝會議場タル藝術協會テ開カレ、先ツ「ランネフト」代表ハ日蘭兩代表部ガ茲ニ會同商議スルニ至レルコトニ付謝意ヲ表シタ後、和蘭側口上書所載ノ通り蘭印產品ノ輸出先タル歐洲各國ハ不景氣ニ對應スヘク新貿易政策即チ「バーター」制ヲ敢行シ同國品ノ販路ヲ確保セント欲シツツアリ。又蘭印ニ於ケル輸入市場ハ絶エヌ變動スルモノナルカ故ニ、速ニ本會商ヲシテ満足ナル結果ニ到達